

# コミュニティ設立趣旨書

2023年5月23日

日本 OSS GPT コミュニティ (OSS GPT Japan)  
発起人一同

OpenAI ChatGPT の衝撃的デビューに代表されるとおり、近年の Generative AI の進化には目を見張るものがあります。すでに AI は研究フェーズから社会実装／応用フェーズへ移行したと考えて良いでしょう。生活のあらゆるシーンへの AI 浸透が始まる時代においては、「AI を正しく理解し使いこなすスキル」が重要なケイパビリティになります。そして日本は、柔軟な二次創作を可能とする「著作権法の一部を改正する法律案」が閣議決定されるなど、実はグローバルに見ても AI 活用に非常に有利な法制度が整う稀有な国なのです。

AI の進化を歓迎する声が高まる一方、そのリスクや倫理面での課題が議論され始めました。かつてのインターネット黎明期のように、免許制度を導入すべきとの意見も出ています。AI の利用者、サービス提供者、モデル開発者の各立場の違いから整理すると、AI 利活用においては以下のような視点が考慮されることが重要です。

AI 利用者の視点	AI サービス提供者の視点	AI モデル開発者の視点
リスク評価と監視	公正な利用と社会的影響の評価	倫理的な設計と責任
プライバシーとデータ保護	顧客プライバシーとデータ保護	透明性と説明責任
公平性とバイアスの防止	利益と倫理のバランス	人間の安全性と福祉の最優先

AI は、その技術発展が人類にとって有益なものにも、人類にとって牙をむく危険な存在にもなり得ます。ちょうど原子力がクリーンなエネルギーを産み出すと同時に強力な破壊兵器にも利用され、戦争の道具として政治利用されるのと同様なリスクをはらみます。アイザックアシモフの「ロボット三原則」には、ロボット (AI) が人類に対して順守すべき原則が規定されていますが、これを使う人類側の原則は含まれません。一部の企業や権力者に AI に対するコントロールを独占される事態は避けなければなりません。

我々にとって幸いなことは、現在の AI 技術が万人に開かれたものであるという事実です。もちろん、日本 OSS GPT コミュニティでは、活動成果をオープンに公開してゆくことをポリシーとします。さあ、オープンなコミュニティ活動を通して、一緒に AI が正しく活用される明るい未来を創り上げましょう

以上